

環境研究総合推進費 研究概要・概要図

研究区分	戦略的研究開発（Ⅱ）
研究期間	2026 年度（令和8年度）～2028 年度（令和10年度）
研究課題番号	SⅡ-13
体系的番号	JPMEERF26S21300
プロジェクト名	自然資本への投資促進に向けた生物多様性価値の定量評価手法の開発
Project Title	Development of methods to measure the value of biodiversity to facilitate investment in natural capital
プロジェクト代表機関	国立環境研究所
プロジェクトリーダー	角谷拓
研究キーワード	生物多様性クレジット、価値評価、流域、里地里山、自然共生サイト

2026（令和8）年4月



環境研究総合推進費
Environment Research and Technology Development Fund



独立行政法人
環境再生保全機構
ERCA Environmental Restoration and Conservation Agency

研究の概要

本プロジェクトは、自然資本への投資促進に向けた生物多様性価値の定量評価手法の開発を行うことを目的とし、以下の3つのテーマから構成する。

テーマ1「スコア化等による生物多様性の価値評価手法の開発及び効果的な活用方法に関する研究」においては、中長期的に目指すべき社会制度を念頭においた実装可能な生物多様性の価値評価の活用スキームを整理し、各活用スキームに必要な生物多様性メトリクスの要件・条件を特定し、開発と実装を行う。日本の自然の特徴に対応した価値評価の適用可能要素の類型化を実施し、各生態系タイプの価値評価適性の評価や適用条件の特定を行う。さらに、価値取引が可能な空間スケールを解明する。国内における重要生態系の評価を実施するとともに、既存研究成果も統合し、重要地域および保全優先度の地図化を行う。回復・保全型の介入を想定し、介入による生物多様性変化の予測手法を開発する。その手法を用いて、ベースライン（介入なしの場合）の状態評価と介入ありの場合の定量的な比較を可能にする。

テーマ2「生物多様性保全に資する社会経済的スキームの受容性及び発展性に関する研究」においては、理論及び既存のカーボンクレジット市場等の知見に基づくアンケート調査およびヒアリング調査を用い、生物多様性保全に貢献する社会経済的スキームの社会的受容性を明らかにするとともに、経済的な環境価値評価手法を応用することで市場規模の予測を行う。また、生物多様性クレジットやオフセット等の社会経済的スキームを導入する際にどのような影響が生じうるか、理論及び実証から検証し、テーマ1とテーマ3の知見を統合することで、生物多様性保全に向けたリスクおよび社会的な公平性の観点から社会経済的スキーム導入の有効性を評価する。

テーマ3「生物多様性の価値評価の実践による効果と課題の分析」においては、河川や湿地、林地など異なる環境における現場での生物多様性の価値評価の実践を通じて、それぞれに適した評価手法や効果、課題、仕組み、連携・統合化の検討を行う。実践に当たってはテーマ1や2の成果も活用しながら、生態系サービスのシナジーやトレードオフも意識しながら検討する。研究内容は（1）流域スケールでの生物多様性の価値評価、（2）二次的自然環境における適用実践、（3）企業と連携した自然共生サイトでの適用実践、の3つのサブテーマで構成される。

研究の全体概要図

SⅡ-13 自然資本への投資促進に向けた生物多様性価値の定量評価手法の開発

